

第 1 章 基本計画の策定にあたって

第1章 基本計画の策定にあたって

1 計画策定の背景

(1)社会的背景

さらなる「まち」の魅力を発掘、創造、発信していく必要があります。

近年、わが国においては少子高齢化の進展に伴い、人口減少社会を迎えています。これにより、労働人口の減少や産業構造の変化が発生し、経済が縮小する可能性が指摘されているところです。地方自治体においては、持続的な行政経営を実現するために、これからの地域経済や地域社会を支える人口を獲得し、地域の発展や財政基盤の強化を進めていくことが求められています。

こうした社会の変化によって、都市間競争が激化する時代に突入したと言われています。「住みたい」、「訪れたい」、「活動したい」と思えるような、人を惹きつける都市になるには、従来どおりの市民サービスの提供だけでなく、まちの魅力を発掘、創造し、それらを多くの人に発信していくが必要になっています。

(2)町田市を取り巻く状況

豊かな自然環境と優れた交通利便性をもつ町田は、さらなる都市の魅力を獲得しなければなりません。

町田市は、古くから鎌倉街道や大山街道(現:国道 246 号線)といった、国の中心地から伸びる街道沿いのまちとして、また、幕末から明治中頃まで生糸産地であった甲州(現:山梨県)や八王子と横浜港を結んだ「絹の道」(現:町田街道)の通るまちとして発展してきました。

今日では、多摩地域南部の中核的都市として、豊かな自然環境と優れた交通利便性を背景に人口 42 万人余りを擁する住宅都市、200 万人圏を抱える商業都市へと成長しました。中でも、小田急線と JR 横浜線の町田駅を核とする中心市街地は、首都圏で有数の商業集積地として周辺地域からも多くの人を集め、市の発展に寄与してきました。近年は近隣の駅周辺や郊外において商業機能の集積が進み、都市間での競争が見られるようになりました。こうした時代の変化に的確に対応し、持続的にまちの賑わいを図っていく必要があります。

(3)文化芸術を取り巻く町田市の状況

文化芸術に触れる機会や場をさらに充実させる必要があります。

町田市には、市内や隣接地域に多くの大学等の教育機関があり、特に玉川大学、桜美林大学、和光大学、女子美術大学、多摩美術大学、東京造形大学、横浜美術大学等の芸術が学べる大学が市内や周辺に多く立地しており、若者たちによる芸術活動が活発に行われています。

一方で、市民意識調査によると、文化芸術活動を行ったり、文化芸術を鑑賞したりする機会を市内で持つことができた市民の割合は 20%程度(※1)となっており、文化芸術に触れる機会や場は、必ずしも十分ではないといえます。したがって町田市が文化芸術の盛んなまちとして都市の魅力を高めていくためには、良質な文化芸術にふれる機会や場の提供を継続し、普及をすすめることが必要となります。

近年、地域活性化の切り札として文化芸術の活用や整備に取り組んでいる自治体が見られます。町田市には市立博物館、国際版画美術館、自由民権資料館をはじめ、文学館や市民ホールなどの各施設があり、文化芸術を普及し、その素地を築いています。こうした文化施設、文化資源をさらに活用していくことで市の一層の活性化が期待できるものと考えられます。

※1 2012 年度町田市市民意識調査より、市内で文化芸術活動に触れる機会はなかった市民の割合 72.9%

2 町田市における文化芸術拠点施設

町田市の文化芸術拠点施設には、
特色ある工芸美術資料を有する市立博物館、
コレクションと活動に定評がある国際版画美術館があります。

(1)既存の文化芸術拠点施設

町田市には市立博物館のガラスや陶磁器等の工芸美術分野の充実したコレクションや国際版画美術館の特色ある版画コレクションがあり、それらを基に調査・研究、展示、教育普及活動等が行われており、町田市の文化芸術振興にとっての重要な財産となっています。

(ア)市立博物館

■概要

所在地：東京都町田市本町田 3562

開館年：1973 年

延床面積：1410 m²(遺跡公園を含まない)

展示面積：337.5 m²

収蔵庫面積：172.2 m²

施設概要：大・小展示室、講堂(60 人収容)、遺跡公園

現在の活動：年に 5 回の企画展

所蔵資料概要：埋蔵文化財 4100 件、民俗資料 3800 件、陶磁器 3300 点、
ガラス 1000 点、大津絵 49 点、ヨーロッパ懐中時計 120 点 ほか

学芸員：4 人

1973年に郷土資料館として開館。1976年に工芸美術品等の展示を含め、多様な市民の文化的要望にこたえるために「町田市立博物館」に名称変更しました。郷土由来の埋蔵文化財や民俗資料のほか、ガラス器、陶磁器、風俗画、大津絵等の工芸美術品を中心に資料の収集を行うとともに、これらを調査・研究し、展示や出版物を通じて、広く公開しています。市立博物館が所蔵する工芸美術資料は、日本有数の質と量を誇るボヘミアンガラスや東南アジア陶磁をはじめとして、全国的に高く評価されています。

(イ)国際版画美術館

■概要

所在地：東京都町田市原町田 4-28-1

開館年：1987年

延床面積：7840 m²

展示面積：1203 m²

収蔵庫面積：621 m²

施設概要：常設展示室、企画展示室(2)、市民展示室、講堂(200人収容)、ビデオ・コーナー、ハイビジョン・ギャラリー、版画工房、アトリエ、売店、喫茶室

現在の活動：有料企画展5回、ミニ企画(常設展示室)、町田市立小中学校作品展、全国大学版画展、作家招聘による公開制作等

所蔵資料概要：所蔵作品総数 約 24,000 点

平安時代から現代にいたる日本の版画、15世紀から現代までの欧米の版画や中国の民衆版画など

学芸員：10人

30万人都市にふさわしい文化芸術施設として1987年に開館した世界でも数少ない版画を中心とする美術館。国内外のすぐれた版画作品や資料2万4千点以上を収集・保存し、多様な展示を行っています。さらに、市民展示室、講堂、版画工房、アトリエ等の施設を備え、市民・来館者に「見る楽しみ」「作る楽しみ」「発表する楽しみ」を総合的に提供しています。また、内外にわたる文化芸術の交流の場として、各種イベントや講座等の幅広い活動を行い、町田市の文化芸術活動の拠点となっています。

(2)市立博物館の工芸美術部門

市立博物館の工芸美術に関する活動は、生活に密着した美としての工芸美術品の収集と活用に、町田市が数十年にもわたって努めてきた成果といえます。最近の日本においては、アニメなどのサブカルチャー、あるいは伝統の職人技を活かした道具や伝統工芸といった身近な芸術分野への関心が高まっていますが、町田市の工芸美術に関する活動はこうした潮流の先駆けとなったものです。収集内容はチェコガラスを中心とするヨーロッパガラスと中国の清朝ガラス、薩摩切子、日本近代のガラス、ベトナム・タイ・カンボジア等東南アジア陶磁、中国陶磁、日本近代の染付磁器など多岐にわたります。現在、日本には多くの美術館・博物館がありますが、このような充実したコレクションと活動実績をもつ館は他に例がありません。町田市の先見性と文化

的実力の証といえます。長い歴史と風土の中で生まれ育った工芸美術は生活とともにあり、伝統に裏打ちされた味わいとともに私たちに心の豊かさと潤いを与えてくれます。

3 国際工芸美術館に関する検討経過と上位計画

(1) 検討経過

**市立博物館の工芸美術部門は考古歴史民俗資料部門と切り離し、
国際版画美術館とともに美術ゾーンを形成して
文化芸術振興に寄与することが求められています。**

市立博物館は 2009 年度に町田市による事業仕分けの結果、施設や活動内容の改善を求められました。これを受け、町田市は 2010 年度に有識者による「町田市の博物館等の在り方検討委員会」において町田市全体の博物館機能を検討しました。その結果、現在の市立博物館については考古歴史民俗資料部門と工芸美術部門を切り離し、前者は教育委員会所管資料とともに庁内体制や資料・情報の一元管理について検討し、後者は国際版画美術館とともに美術ゾーンを形成して文化芸術振興に寄与すべきであると結論づけられました。

そこで、町田市は 2011 年度に新しい博物館の基本構想として「町田市における博物館機能の再整備に向けた調査検討報告書」を策定しました。ここにおいて、町田市の文化芸術振興を躍進させ、「まちの賑わい」に寄与するために、町田市の貴重な財産である工芸美術資料を活用して「魅せる」「楽しむ」「支える」ための機能を充実した工芸美術館を芹ヶ谷公園内にある国際版画美術館と近接させ、美術ゾーンを形成する形で整備することを方向付けし、以下の理念と基本方針を策定しました。

■基本理念

「くらしの中の知恵と美」の探究

身近にあるくらしのなかの器や道具などに込められた、
人類の知恵や美に対する思いを明らかにしていく

■基本方針

1. 知恵と美のエッセンスにあふれる「もの」に光をあてていきます
2. 「くらしの中の知恵と美」を解き明かしていきます
3. わたしたちのくらしと結びつけ、町田の文化の発展に貢献します

(2)上位計画

**「まちだ未来づくりプラン」・「町田市新 5 カ年計画」を実現するための計画として、
「町田市文化芸術振興施策の基本方針」その他の関連計画との整合を図ります。**

町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」(※1)では、基本目標のひとつとして、「賑わいのあるまちをつくる」を掲げ、「文化芸術活動が盛んなまちをつくる」を基本政策として、誰もが文化芸術に親しめる環境を作ることを明示しました。

「町田市新 5 カ年計画」(※2)では、重点事業として、「文化芸術の拠点施設の整備」や「文化芸術作品の鑑賞機会の充実」を掲げました。

また、「町田市文化芸術振興施策の基本方針」(※3)では、町田市の文化芸術について、「魅せる」、「楽しむ」、「支える」という3つの場面での取り組みを通じて、「文化芸術で人とまちがにぎわう・まちだ」というコンセプトの実現を図ることにしました。

※1 町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」:2012 年度～2021 年度の 10 年間のまちづくりの考え方を示す

※2 町田市新 5 カ年計画:「まちだ未来づくりプラン」の実現に向けた具体的な事業と取り組みを示す

※3 町田市文化芸術振興施策の基本方針:文化芸術を振興していくにあたり、そのイメージを共有し、連携していくための基本的な方向性を示す

4 国際工芸美術館の目指すもの

**良質な文化に触れる機会を提供し、まちの賑わいに貢献していくことを
目指します。**

市立博物館は、優れたコレクションを有しながら、施設の老朽化や立地条件等に課題があると、2010 年度の有識者による「町田市の博物館等の在り方検討委員会」から報告されています。これらを踏まえ、町田駅から徒歩でもご来館いただける芹ヶ谷公園内に整備することで、国内でも有数のコレクションを多くの人に鑑賞していただける美術館を目指します。

また、国際版画美術館に隣接することで「美術ゾーン」が形成され、芹ヶ谷公園が町田市を代表する魅力あるエリアのひとつとなります。

加えて、周辺の文化施設や中心市街地の商店街などと連携することで、まちの魅力向上、まちの賑わい創出につなげていきます。